

# 災害の無い職場作りのために

付知営林署 神原光男  
山内金雄

## 1. はじめに

当署は、昭和53年9月以来無災害を続け昨年2月には無災害100万時間を達成し、9月27日には無災害満4年を記録していたが、昨年12月15日、無線導入に伴い不用となった事業電話を撤収作業中、電柱が折れ転落による災害が発生した。（幸い経過も良く2月には職場復帰の見込みである）この災害を、署、現場全員が素直に反省しこれを教訓にして、第一歩から災害の無い職場作りのために、とりあえず、3月までの冬山作業を安全でがんばろうと決意したところである。

今回の発表は私達現場で、今まで取組んできた安全活動を土台に、更に積極的に推進して行くため、生産、造林の足場から日頃実行している内容を報告する。

## 2. 生産

渡合製品事業所は14名中、13名がレイノー認定者で治療を続けながら、新しく開発された機械器具の積極的導入をはかり、その成果を上げるよう作業システムの改善、作業用具の改良、及び安全確保に全員一丸となり取り組んでいる。

過去の災害を分析すると、昭和52年に固定玉切装置のローラーに右足を巻き込まれ複雑骨折となる災害、又53年には間伐作業中かかり木の処理を誤り倒れてきた伐倒木の枝で頸部を打つ災害が発生し、いずれも障害を残して退職、職種換を余儀なくされた仲間がいる。この事実を現場全員が真剣に受け止め、与えられる安全でなく素直でゆとりのある自分達の安全を作るという安全意識が高まってきた。

### (1) 現場における安全と振動障害対策

#### ① 伐倒

昭和54年からリモコンチェーンソーを使用し、手工具による重筋労働から解放された。

#### ② 枝払い

造林との総合生産性向上を図るため、全幹集材から全木集材に切替え。不安定な先山で斧による枝払い作業を減少するため、盤台上で枝払いをするより、盤台用油圧枝払機を導入。油圧枝払機と手工具を併用することで腕、肘、肩などの痛みも少なくなり皆喜んでいる。

#### ③ 造材

固定玉切装置を主体に実行しているが、副作業が多くなるため、56年に名古屋式移動ソーを

全国最初に実験した。しかし現在では導入が見合わせとなっている。

## (2) 毎日の安全活動

### ① 仕事も安全も健康な身体から

何をやるにしても健康第一、二日酔するほど飲まず、早寝早起きを心がけ、疲れを明日に残さぬ生活、家族の協力も大切な事、円満な家庭ムードは、安全作業のはげみとなる。

### ② しっかりした基本と道具

正しい安全作業。伐倒。集造材における指差確認と呼唱の定着を図り、どんな器具、機材でも点検整備を怠らず、基本動作、作業要領を自分のものとする。

### ③ 段取り八分

どんな仕事でも「段取り八分」というが、私達の職場のように、天気によって左右される作業は、段取り八分が、仕事の工期や安全につながる。

作業の前に皆で話し合い、確実な作業指示と、作業者との連携確保の徹底を図る。安全に妥協は許されず、素直な気持ちで作業を行い、「与えられる安全でなく、ゆとりある自分達の安全を守る。」ここで一つ重要な事であるが、仕事は絶えず追うことであって、仕事に追われると、精神的にも焦りが出て、不安全行為を起こすからである。

### ④ 自らの努力と心の結びつきを深める。

私達の事業所は、全員付知町内に住み、お互いに気心もわかるため、チームワークもよくまとまり、自分への謙虚な気持ちと、お互いの思いやりを大切にしている。

以上が私の事業所の地道な安全活動です。安全で災害の無い職場作りは、“エンドレス”今後とも、安全作業の取り組みに努力したいと思っている。

## 3. 造 林

当署の造林事業は、現在、3担当区合わせて21名で、改善計画を着実に進めながら、緑の山造り、安全作業に努力しているところである。

付知の山は、山足が長くて傾斜がきつく、加えて笹が濃いという現場が多く、更新、保育作業等に支障をきたしているのも、何と言っても、作業上の安全確保に一番神経を使っている。造林については、昭和50年の災害を最後に、現在まで7年数カ月間、無災害を続けている。そこで、造林での日頃の安全活動を発表する。

造林事業における各作業には刃物はなくてはならない重要な道具であり、一日として手離すことのできないものである。しかし、取扱いによっては、危険な刃物ともなる。

昭和58年には、下刈鎌、除伐鎌のすべり止め金具の改良、新勝流枝打鎌の改良などを発表した。特に今年度は、造林事業における災害が多発している折から、毎日の仕事の中から、より安全で能率的な道具について、主任・補助員を含め皆んなで話し合っている。

#### (1) 日常の具体的安全活動

##### ① 緑十字の日の取り組み

昨年2月から再スタートしたが、付知では、毎月1日に設定し、前月の反省、その月の安全目標の徹底、仕事の流れと段取り、月末に開かれた安全衛生委員会の報告など中味の濃いものになっている。

##### ② 毎朝のTBM

お互いの顔を見合わせて、その日の健康状態のチェック。班長を中心に、作業内容と作業配置の指示、及び危険ヶ所の徹底。その日使用する作業用具の点検整備を確実にやっている。

##### ③ 体操と深呼吸

朝、昼の体操。同じ動作の多い造林作業では、一定の筋肉運動になりやすい。安全当番の号令で、背筋を伸ばし、手首、腕をほぐしからだ全体を柔軟にして、突発的な危険に対応できる態勢をつくっている。又、作業の合間に新鮮な空気を胸一杯に吸って、深呼吸をすることも、調子を整える大切な事である。

##### ④ 300事故通報カード

「災害は小さな芽のうちに摘みとる運動」の盛り上がりで、安全は自ら求め、自ら守る事を自覚し、今日のハッとした事は、仲間に語り、注意を喚起してカードに記入している。このカードは署へ提出し、安全衛生委員会で討論し、全現場へ、類似事故の再発防止に役立てるなど活用している。

##### ⑤ 安全日誌

ペンを握ることの苦手な私達だが、その日の作業、皆んなの健康状態など、全員交替で記入している。

以上の活動は特に目新しいものではないが、私達一人一人が「自分達の職場から災害を出さない」という信念で、地に着いた安全活動が、安全作業に結びついていると思うのである。

今年度からは、冬期間、生産への流動化が始まり、5名の仲間が伐倒、造材など、慣れない作業の中で基本を忠実に、安全作業に徹し、がんばっている。

災害の無い職場づくりのために、営林署、現場、生産、造林、林道の区別なく、一丸となって、背のびせず、一日一日を大切に、「痛い事すれば自分が損だ」と言う気持ちで努力することである。

#### 4. ま と め

限りない安全活動を積極的に推進するため、今年から初心にかえり年輪のように節目を設け、無災害の木を、定員内外の分けへだてなく、それぞれの立場で、しっかりと安全へ根を張り、大きく成長させたいと思う。「当面は、3月までの冬山は無災害で」を合言葉にがんばっているところである。今後一層安全作業に努めて行きたい。